

キトラ古墳壁画保存管理施設における来館者の変化と今後の課題

ー新型コロナウイルス感染症の 5 類感染症移行後ー

1 はじめに

2023年度に、日本政府は新型コロナウイルス感染症を「新型インフルエンザ等感染症」から「5 類感染症」へと移行させた。今年度に至る 2 年間は、感染症対策の大きな変化が社会全体に影響を及ぼし、キトラ古墳壁画保存管理施設の運営にも多大な影響を与えた。そのため、公開展示参加者の心理的变化をデータにもとづいて把握することは、今後のイベント再開・展開において極めて重要であると考ええる。

キトラ古墳壁画の公開展示は年間 4 回実施される非営利的活動であり、開館当初から予約制が導入されている。また、フィードバックを重視する方針のもと、公開展示参加者へのアンケートを開館以来継続して実施してきた。2023年度および2024年度のアンケート内容は、5 類移行後の公開展示参加者の変化を分析する上で大きな意義をもつ。

本稿では、まずこの 2 年間の展示内容を紹介し、その後、公開展示参加者数の推移と心理的变化を分析する。

2 2023年度・2024年度 夏公開の内容

2023年度第28回公開：「朱雀・蛍光X線分析結果」

泥に転写されたかたちで発見された午は、その脆弱性から画像でのみ展示をおこなってきたが、三次元計測技術を用いて複製品を作成することで実物に近い情報を伝

えることが可能となった。

また、南壁の巳にあたる箇所は、泥に覆われて何も目視できない状態にあるが、2023年度におこなわれた蛍光X線マッピング分析から、二又の舌を持ち、衣をまとった巳の姿が浮かび上がった（図113）。

複製品・分析画像により最新の研究成果を速やかに展示公開に結びつけることができた。

2024年度第32回公開：「朱雀・鎌倉時代の盗掘痕跡」

高松塚古墳およびキトラ古墳は、石室内から出土した土器（土師器）から鎌倉時代に盗掘されたことが判明している。高松塚古墳の石室内から出土した 3 点の土器片は、最近の調査で同一個体をなすものであることが判明し、接合修理された。今回が修理後、初めての公開となった。

第28・32回とも展示内容には新発見および初公開の展示物が含まれるが、既に公開したことのある展示物についてもアンケートを参考にし、参加者がより見やすくなるよう展示手法の改良に努めた（図114）。

3 2023年度・2024年度 秋公開の内容

2023年度第29回公開：「発見40周年：玄武」

1983年11月、キトラ古墳壁画の中でもっとも早く発見されたのが玄武図であった。盗掘孔からファイバースコープカメラが挿入され、その映像が古墳前に設置されたテント内のモニターに映し出されたことで、「6」の字のような形をした玄武の姿が初めて鮮明に確認された。この歴史的瞬間はNHKにより報道され、大きな反響を呼んだ。

公開では、発見40周年を記念し、当時の状況を再現する試みとして、NHKの映像のスクリーンショットを活



図113 第28回公開展示風景



図114 第32回公開展示風景



図115 第29回公開展示風景

用した展示を実施した(図115)。さらに、公開展示参加者には40周年記念コースターを無料配布した。

2024年第33回公開：「天文図」

キトラ古墳の天井には、世界最古の科学的な中国式天文図が描かれている。過去の展示におけるアンケート結果から、多くの公開展示参加者が中国式星座と西洋式星座の違いを認識しておらず、また天文学の基礎知識も十分ではないため、壁画の奥深さを感じられていない様子が見られた。

そこで、本展では、天文図を回転できる星座早見盤のようなパネルを作成し、あわせて参加者自身が開閉により中国式星座と西洋式星座の違いを認識できる展示パネルを設置することで、「斗転星移」(時の流れによる星の動き)という概念を直感的に理解できる工夫を施した。また、プラネタリウム体験と組み合わせることで、展示の理解がより深まるように試みた。

4 2023年度・2024年度 参加人数の比較

キトラ古墳の公開展示は予約制でおこなわれている。新型コロナウイルス感染症の流行期には、密集を避けるために1日あたりの入場者数上限が250人に制限されていたが、2023年度以降は340人に回復し、現在も継続されている。

図116に示すように、2023年度の公開展示では4回の公開を通じた総参加者数は24,692人であり、各回の参加者数は5,976人、5,732人、7,404人、5,580人であった。一方、2024年度の公開展示では総参加者数が25,762人となり、各回の参加者数は6,712人、6,485人、7,512人、5,053人であった。これは前年比4.3%の増加に相当する。

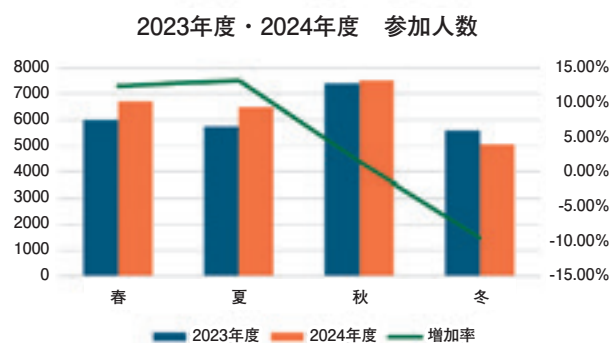


図116 2023・2024年度 参加人数と増加率

2年間の比較において、増加傾向は特定の回に集中しているわけではなく、特に春夏には、それぞれ12.40%および13.18%の増加率が記録された。

また、2023年秋季の展示では、参加者数が急激に回復しており、2024年度の秋季と比較して増加率が大きかった。2023年度秋季の第29回公開と2024年度秋季の第33回公開の参加者数は横ばいであったが、依然として新型コロナウイルス感染症以前の水準には達していない。2023年4月27日、厚生労働省は新型コロナウイルス感染症を「新型インフルエンザ等感染症」から「5類感染症」へと移行させることを正式に発表した。キトラ古墳壁画の公開展示は同年5月18日から開始されたため、この時期の公開展示参加者はまだ外出を控える傾向が見られた。しかし、秋には訪問に対する心理的ハードルも低下し、「発見40周年」の影響により、参加者数の急激な回復につながったものと推測される。

5 ハンズオン展示の導入とその影響

2024年秋では、新たにハンズオン (Hands-on) 展示を導入した。従来の公開展示は壁画やその関連情報の提示を中心としたものであり、参加者とのインタラクティブな要素は設けられていなかった。しかし、展示を交流の場としての役割を果たすものとするためには、展示企画者と参加者との相互性を高めることが重要である。

キトラ古墳の天文図は世界最古の科学的な中国式天文図であるが、その星座配置には黄道のずれなど、いくつかの不明点がある。これらについてはさまざまな解釈があり、一定の天文学的知識をもつ人であっても短時間で理解するのは容易ではない。



図117 ハンズオン展示パネル

天文図を回転させる（図117）ことで、古代の人々と現代の人々の距離を縮め、「斗転星移」の概念を直感的に理解できることが期待された。また、開閉式の展示パネルでは、質問形式で中国式星座と西洋式星座の違いや範囲を比較し、一般的な天文学の知識とキトラ古墳の天文図を結びつける工夫を施した。

唯一の懸念点は、公開展示参加者がハンズオン展示における接触をどの程度許容するかであった。そこで、班ごとに頻繁な消毒を徹底し、感染リスクを最小限に抑える対策を講じた。その結果、公開期間のアンケート調査において、接触に対する否定的なフィードバックは確認されなかった。しかし、回転には一定の時間がかかるため、混雑時には回転式展示パネルの前に列ができる状況が発生した。この点は今後の展示における課題として検討する必要がある。さらに、入室人数や時間に制限のない壁画の非公開期間では他の見学者や時間を気にせずパネルをじっくりと触れられるため、来館者から良好な評価を得た。壁画公開がない分、パネルの見学に意識が集中することもあり、ハンズオンはより良い体験になったと考えられる。

アンケート調査の結果、ハンズオン展示に対する接触の懸念について否定的なフィードバックは見られなかった。したがって、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行した現在、公開展示参加者はもはや密室空間や接触による感染に対して過度な警戒心を抱いていないと

考えられる。

6 公開展示参加者数に影響を与えたその他の要因

アンケート調査の結果、公開展示参加者数の増減において、新型コロナウイルス感染症以外には以下の要因が影響していると考えられる。

交通手段の影響

新型コロナウイルス感染症の流行が始まった第14回公開展示から、バスを利用して来館する人の割合は急減した。この傾向は2023年度になっても回復していない。その理由として、2023年度以降も公共交通機関の利用に対する抵抗が続いていたわけではなく、パンデミックの影響でキトラ古墳に立ち寄る路線バス自体が廃止されたことが挙げられる（図118）。

さらに、アンケート結果によると、キトラ古墳壁画保存管理施設を単独で訪れる公開展示参加者は少なく、多くの人が飛鳥地域の他の遺跡とあわせて巡る観光ルートを選択している。そのため、バスの廃止により、移動手段が限られた公開展示参加者がキトラ古墳を訪問先のリストから除外した可能性がある。

また、2023年度および2024年度のアンケート結果では、駐車場に関する否定的な意見が増加した。交通手段の変化により、自家用車での公開展示参加者が増加し、駐車場の混雑が進んだと考えられる。

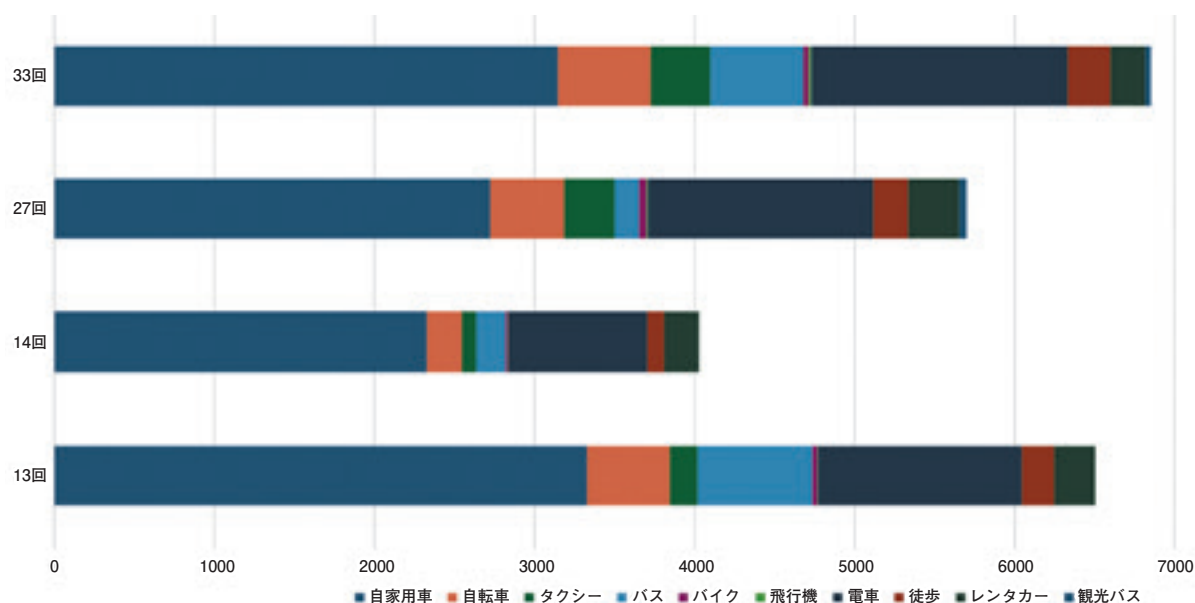


図118 交通手段の変化

表20 奈良県紅葉シーズンの変化

年	観測日	平年差 (℃)	昨年差 (℃)
2023	11月20日	- 1	+ 6
2024	11月28日	+ 7	+ 8

表21 2023・2024年度10月11月奈良の天気

	2023年10月	2023年11月	2024年10月	2024年11月
平均温度 (℃)	- 0.4	+ 0.8	+ 3	+ 1.8
降水量差	68%	124%	97%	173%

気候の影響

日本気象庁の発表によると、2023年度秋季と2024年度秋季の気候を比較した場合、2024年度の奈良県はより天候が悪かった。(表20・21)

特に秋の連休期間中の状況を比較すると、

2023年：紅葉シーズンと近い、観光客が多く訪れた。

2024年：雨など天候が悪い日が多く、紅葉なども例年より1週間以上遅れた。

キトラ古墳は国営飛鳥歴史公園内に位置し、風光明媚な環境にあるため、季節や観光シーズンの影響を大きく受ける。そのため、周辺環境との調和を考慮した展示を計画することが重要である。

7 公開展示参加者の特性と今後の可能性

公開展示参加者の特性を分析すると、2023・2024年度ともに「初めて訪れる人」と「2回目の公開展示参加者」がもっとも多いことがわかった。

キトラ古墳壁画の公開展示では、一度に1～2面の壁画しか公開されないため、すべての壁画を見るには最低でも4回の来館が必要となる。しかし、これまでに全壁

画を見たことがある公開展示参加者は、全体の約4分の1にとどまっている。このことから、今後の公開展示においてリピーターの獲得を促すことで、さらなる公開展示参加者数の増加が期待できる。

8 おわりに

以上の分析を踏まえると、今後の展示計画においては、以下の点が重要な課題となる。

- (1) 周辺環境に応じた展示の計画
- (2) リピーターを増やすための展示やイベントの工夫

(楊 萌・濱松佳生)

参考文献

- 1) 馮時『文明以止』中国社会科学院、2018。
- 2) 気象庁 奈良地方気象台「奈良の気象2023・2024」。
<https://www.data.jma.go.jp> (2025年2月27日)
- 3) 菊地智慧・石橋茂登・金旻貞・柳田明進「キトラ古墳壁画の公開とアンケート結果の考察」『紀要 2017』。
- 4) 濱松佳生・石橋茂登・王杰「キトラ古墳壁画に関する教育普及活動の報告と公開アンケートの分析」『紀要 2023』。